

小鹿野町地域公共交通計画（案）に関するパブリックコメント実施結果

「小鹿野町地域公共交通計画（案）」に関するパブリックコメントを実施した結果、貴重なご意見（18件）をいただきましたので、ご意見とご意見に対する町の考え方を次のとおり公表します。

1 実施概要

- (1) 実施期間 令和6年2月6日（火）～令和6年3月6日（水）
- (2) 公表方法
 - ア 町ホームページへの掲載
 - イ 小鹿野町役場町政情報政コーナー、小鹿野文化センター、町立図書館（両神ふるさと総合会館）保健福祉センター窓口での閲覧
- (3) 提案者数：5人
- (4) 提案件数：18件

番号	ご意見	ご意見に対する町の考え方
1	<p>住民の足を守ろう権利としての地域公共交通だれもが行きたいときに行きたい場所へ移動できるまちであるための地域交通政策を。</p> <p>高齢者の外出や歩行を促し、健康でプラスになれば医療費や介護費の削減につながります。</p> <p>交通は人の交流、情報交換などをつうじて地域社会や人々の文化を高め豊かな生活を築き上げます。</p> <p>地域交通政策をつくる意義は自治体の使命である福祉の増進でもあります。</p> <p>他自治体の成功事例</p> <p>①目的が明確であること、どうしたらみんなが喜ぶ乗り物になるのかが十分議論されたこと。</p> <p>②住民が主体となって議論を重ねとりくんだこと、地域の実態を調べ誰が、いつ何に困っているかをつかむ。</p> <p>③運営に住民参加がなされていること。</p> <p>④随時、運行についての評価がおこなわれ、そのつど問題点が改善されていること。</p> <p>失敗例は</p> <p>①行政が主導して計画立案してしまうこと。</p> <p>②住民の意見が反映されていないこと。</p>	<p>ご意見の通り、住民の足としての公共交通を守って行くことの重要性を理解し、「地域の暮らしとまちづくりを支える 持続可能な地域公共交通の実現」を基本理念とした地域公共交通政策を検討してまいります。</p> <p>ご提示いただいた他の自治体の成功事例と同様に、本町の抱える社会環境問題及びバス路線や乗合タクシー、福祉有償運送事業等、多様な公共交通機関の利用実態の把握、関係機関へのヒアリング等々を行うとともに、住民アンケート調査、多世代を対象とした公共交通利用者アンケート調査により、その利用実態や不満点、ニーズの把握に努めております。</p> <p>また、計画の実施にあたっては、地域の様々な問題や課題を把握し、地域公共交通の果たすべき役割を理解した上で、地域の状況に応じた施策を検討してまいります。</p>

2	<p>住民には、交通移動の権利があり、行政には、地域の足を確保する責任があります。運転免許の返納に伴い、また体力低下の高齢者の買い物、医療機関の通院が難しくなってきます。</p> <p>住民が住み続けるために必要な地域公共交通の充実を願います。</p> <p>①役場・郵便局・病院・銀行・バイパス等の店など巡回型町営バスの活用を。</p>	<p>巡回型町営バスの活用については、具体的な施策としていませんが、本町には路線バスのほか、乗合タクシー、福祉有償輸送事業（ハッピー・パートナー）、ファミリー・サポート・センターの子育て支援・送迎サービス等、多様な移動手段があり、これらをうまく組み合わせて利用することで、高齢者はもとより多様な世代の移動手段の確保に努めております。</p>
3	<p>②だれもが安心して快適に利用できる持続可能な交通体系として</p> <p>②-1. 「新たな交通サービス」の導入・利用者の少ないバス路線区間へのデマンドバス等の新たな交通サービス検討（倉尾線）</p>	<p>倉尾地域の公共交通については、新たな交通サービスの導入を検討してまいります。</p> <p>また、計画の実施にあたっては、地域の様々な問題や課題を把握し、地域公共交通の果たすべき役割を理解した上で、地域の状況に応じた施策を検討してまいります。</p>
4	<p>③施策②-5. デマンドシステムと融合によるスクールバスの一般利用、これも検討する価値あるものです。空バスを利用することも住民の移動性の向上につながります。</p>	<p>今後、小学校統合により町全域でスクールバスが運行されます。</p> <p>スクールバス運行時間以外の活用については、一般利用のオンデマンドバス車両として共有化の検討を進めてまいります。</p>
5	<p>④地域住民の声をよく聞き、実施にあたり、改善できるものは、改善していく方向で柔軟な対応をしていってほしいです。</p>	<p>ご意見の通り、計画の実施にあたっては、計画期間を通じて柔軟に対応し、適宜見直し、改善をはかっていく必要があると理解しております。</p> <p>また、計画の実施にあたっては、地域の様々な問題や課題を把握し、地域公共交通の果たすべき役割を理解した上で、地域の状況に応じた施策を検討してまいります。</p>

6	<p>⑤小鹿野町行政が積極的に支援して行ってほしいです。国へ地域公共交通への補助金を増やす声をあげて行ってほしい。町の限られた予算の中では難しいので国へ要求して行ってほしい。住みよい小鹿野に住民の声を聞く中で作り上げていけば誰も納得でき多くの住民にも歓迎されると思います。行政主導での計画実施にならないよう望みます。</p> <p>沢山の良い案が出てくることは、町民への声を聞くことだと思います。</p>	<p>ご意見の通り、地域公共交通における補助金を維持していくことの重要性を理解し、町の全ての方が、安心、快適に利用できる持続可能な公共交通サービスの提供を目指してまいります。</p> <p>そのため、国や県の補助金を積極的に活用していくとともに、町においても、補助事業の継続、通学定期補助等の充実等を図り、公共交通の利用促進を図ってまいります。</p> <p>また、計画の実施にあたっては、地域の様々な問題や課題を把握し、地域公共交通の果たすべき役割を理解した上で、地域の状況に応じた施策を検討してまいります。</p>
7	<p>運転免許返納後の高齢者の交通手段は深刻で、足腰も弱り、長距離を歩くのも不可能。そんななかで買物、通院などをどのように確保してゆくか？</p> <p>小鹿野町に合ったオンデマンドシステムが構築確保されればですが、体制作りに時が必要となるかと。</p> <p>資料をいただいた時から多くの方々にこの件について考え（現状）を伺いました。</p> <p>家族のある方は家族に、独居の方は知人に少し遠慮しながら足を頼っているようです。</p> <p>現在町で行われている交通サービスについてあまり知られていないようです。</p> <p>良いサービスができてPR不足で利用されていないのではもったいないし、長続きしなくなってしまうでしょう。</p> <p>今後よりよいシステムを作るため多くの人達から意見を聞き、皆んなが利用できるよう考えを出し合って行きたいですね。</p>	<p>今後さらに高齢化が進むことも予想され、運転免許を返納したの方の移動手段確保の重要性を理解しております。</p> <p>地域公共交通計画の施策においては、路線バスとオンデマンドバスを組み合わせることにより、すべての町民の移動の確保、向上を目指しております。</p> <p>また、本町には路線バスのほか、乗合タクシー、福祉有償輸送事業（ハッピー・パートナー）、ファミリー・サポート・センターの子育て支援・送迎サービス等、多様な移動手段があり、これらをうまく組み合わせることで、高齢者はもとより多様な世代の移動手段の確保が図られると考えております。</p> <p>ご意見の通り、これらの多様な交通手段については、まだ知らない町民が多いことをふまえて、より利用しやすいサービスとなるよう今後一層の周知を実施してまいります。</p>

8	<p>1鹿野町地域公共交通会議について (1)小鹿野町地域公共交通会議設置要綱（以下「要綱」という。）第3条の基づく委員選出は各号で規定されているが、女性委員はおおむね半数に達しているのか？以前政策審議会では、女性の声を聞くことが大事だとの声もありましたが、要項第3条1・5・10号により選出された内半数は女性を選出すべきだと思う。 (2)会議は、要項第5条4項で原則公開と決められてが、開催日時や議事録・会議資料等が公開されていないことから、要項の会議原則公開は守られていない。</p>	<p>ご意見の女性の参画については、今後の参考とさせていただきます。 また、会議、会議録等については、公開してまいります。</p>
9	<p>2 地域公共交通を考える場合の基本的視点について (1)私もこの計画の最終年度には、自動車運転免許の返納（小鹿野警察署に確認したところ70代を過ぎると自動車運転免許返納者が増えている。）を検討せざるを得ない年齢に達していることから、地域公共交通（以下「交通」と言う。）の利便性の高めるとともに経済的な負担減少も含めた対策が必要かと思う。現在、65～74歳までの人口が町の2割以上約2200人程度と多くこの階層が5年後さらには10年後には交通が必要となる。次の世代は25年後の40歳から49歳までの世代人口は約1300人程度で約40%の人口減となる。 65歳からの世代は、両親・親戚、近隣の高齢者の交通を支えたことから交通の脆弱性を補っていたが、今後65歳からの世代が高齢化した時の交通を補う必要が生じるが40歳からの世代が少ないことから交通の需要が高まる可能性が高い。 (2)過去においては、西武バス志賀線の西武志賀坂ロッジから西武秩父駅までの急行バスは常に満車状態だったことを記憶しているが、現状では利用者の回復は見込めないと思う。また、西武バス三峰口行、浦島口行も次々に廃線となり過疎地域の公共バスは継続困難な時代となったと思う。</p>	<p>ご意見の通り、人口減少、少子高齢化の進行などにより、路線バスの利用者は減少傾向にあり、町の財政状況からも地域公共交通の効率化と維持・確保をどのように図るかは重要な課題と理解しております。 そのなかで、すべての町民の移動手段としての公共交通を継続的に維持し、確保することは重要で、「地域の暮らしとまちづくりを支える 持続可能な地域公共交通の実現」を基本理念とした地域公共交通政策を検討してまいります。</p>

10	<p>3 今後の地域公共交通の具体的計画について</p> <p>(1)西武観光バス収支は資料公表が無いので不明だが、倉尾線の現行利用状況では当然のことだが不採算路線で廃線もやむを得ないと思う。志賀坂線もほぼ同様の収支と思われ、二子山や尾ノ内溪谷、両神山登山客が見込まれるが収支が改善される見込みはないと思う。両線の事業補填もおおよそ3000万円と推定でき、大金を助成してまでも路線を維持する状況になく2路線とも廃線とする。</p>	<p>西武観光バス倉尾線については、2023年度の運行実績で、1日20人前後、1便当たり2人程度、利用者なしで運行している便もある実態をふまえ廃止し、新たな公共交通サービスの導入を検討してまいります。</p> <p>志賀坂線については、1日90人前後、1便あたり9人程度の利用があり、町民の移動手段として必要があると判断して、継続としております。</p> <p>バス路線の廃止については、廃止後地域住民の移動手段をどう確保するかも重要な視点でありますので、貴重なご意見として承ります。</p>
11	<p>(2)町営バスは、利用状況からして三峯口線の廃止はやむを得ないと思うが、他の路線も令和5年度予算で800万円の運賃収入を見込んでいるが運行委託料は4300万円で100円の収入を得るのに537円経費が必要となる。西武観光バスの2路線廃止と全ての町営バスを廃止し乗合タクシー・ハッピーパートナー・その他の地域公共交通を一括で全町を挙げて構築することが望ましい。小鹿野町地域公共交通会議は、西武秩父観光の倉尾線・町営バス三峰口線廃止を決定したが、今後も時間と費用を費やして志賀坂線や村営バスの廃線の議論を行わなければならないと思う。今回も地域公共交通確保対策費800万円（このお金、何に使ったの？）を費やし、今後も2度3度と繰り返すことはいかかなものか？</p>	<p>多様な移動手段を組み合わせることで地域公共交通を維持し継続していくことの重要性は理解しております。</p> <p>本計画において、利用実績の少ない西武観光バス倉尾線については、新たな公共交通サービスの導入を検討してまいります。町営バス両神温泉薬師の湯から三峰口駅までの路線を廃止を検討するとともに、両神温泉薬師の湯から小鹿野町役場間の増便を含めて検討してまいります。その他の路線については、町民の移動手段として必要と判断し、継続としております。</p> <p>地域公共交通確保対策費は、民間事業者が運行する乗合タクシーへの運行費に対する補助金交付で、町民の生活や移動手段の確保に必要な費用と考えます。</p>

1 2	<p>(3) 西武観光バス小鹿野線の利用者を増やす対策について</p> <p>①現在、終・始点が栗尾及び小鹿野車庫になっているが道の駅薬師の湯及び小鹿野車庫に変更する。</p> <p>②小鹿野高校通学者の通学定期を全額、町の助成とする。朝夕の便は小鹿野高校経由とする。</p> <p>③小鹿野から小鹿野高校以外への通学定期の助成額を増す。</p> <p>④町内企業へバス通勤奨励を依頼する。町内飲食店等の協力を得て通勤定期購入者へサービス券を発行する。</p> <p>⑤町内宿泊施設の事業者の協力を得てバス利用者へ粗品を進呈する。</p> <p>⑥道の駅薬師の湯までの利用者へ薬師の湯利用者へ割引券を発行する。</p> <p>⑦その他バス利用促進を積極的に行う。</p>	<p>西武観光バス小鹿野線の路線変更については、必要に応じて交通事業者や関係機関と協議をさせていただきます。</p> <p>通学定期の助成については、本計画において通学定期補助の充実（上限額見直し）を記載しております。</p> <p>公共交通利用促進施策については、本計画において観光イベントによる公共交通利用の促進を記載しております。</p> <p>施策の推進について、今後の参考とさせていただきます。</p>
1 3	<p>(4) スクールバスの有効活用について</p> <p>① 唯一の朝夕定時運行のスクールバスを町民・観光客が無料乗車出来るようにする。</p> <p>② 一部スクールバスは、町内無料循環バスとして運行する。 例：役場⇄町立病院⇄埼玉りそな銀行⇄原医院⇄堤医院⇄薬師の湯⇄コメリ⇄ラコマート⇄郵便局⇄綿半⇄役場 30分間隔無料</p> <p>③ 特定日地域特別運行する。 倉尾（月）・長若（火）・三田川（水）・両神小森（木）・両神薄（金）＝薬師の湯⇄町立病院⇄小鹿野町役場を1時間に1本程度の有料定期運行を行う。</p> <p>④ 季節特定日運行する。 例：セツブンソウ、ダリア、氷柱、桜（長若・久月）、鉄砲祭り、などの時期は、景勝地 ・祭り開催場所⇄薬師の湯⇄役場⇄松井田（長若地区運行のみ） 運行は、休日祭日のみ</p>	<p>スクールバス運行において最も優先されるのは、生徒の登下校等の移動が確保されることにあり、安全面にも万全を期す必要があります。</p> <p>生徒が利用する時間帯に、一般利用者や観光客を混乗することには、様々な問題が想定されることから、スクールバス利用以外の時間帯での活用を検討してまいります。</p> <p>スクールバスの有効活用については、どのような運行体制とするのか、ご意見を参考として小鹿野町教育委員会、交通事業者及び関係機関と協議してまいります。</p>

1 4	<p>(5) 乗合タクシーの充実について</p> <p>①すべての運行を自宅⇄目的地で乗車が出来、さらには相乗りした者に特典与えるなど工夫する。75歳以上、障がい者、介護保険要支援者以上の者には、無料利用券を発行する。</p> <p>②観光者向タクシーは、一日1人10,000円2人5,000円3人以上3,000円で観光地・※1体験メニュー・日帰り温泉・飲食店等のコースを設け観光客誘致を促進する。</p> <p>※1体験メニュー例:農業・そば打ち・シイタケ栽培・わら細工・釣り・カヌー・笹簀づくり・森林作業など</p> <p>③自動車運転免許証への無料乗車券プレゼント</p> <p>④有料利用者に対するスタンプサービス</p> <p>⑤ タクシーの不足が見込めるため自家用車自動車持込者の活用を行う。</p>	<p>乗合タクシーについては、運輸局の運行許可が出ている地域では、自宅から目的地まで乗車することができます。また、77歳以上の方で、小鹿野町高齢者バス優待乗車券及び身体障害者等の手帳をお持ちの方は、小鹿野町高齢者等バス優待乗車事業実施要綱により無料で利用することができます。</p> <p>ご提案の利用促進施策等については、今後の参考とさせていただきます。</p>
1 5	<p>(7) ハッピーパートナーの運転者確保について</p> <p>①各組織の会議や研修等で事業の説明と運転者の募集を行う。 区長、民生児童委員、健康サポーター・こじかクラブ・各種スポーツ団体等の会議でPRを行う</p> <p>②役場職員が一丸となって募集する</p>	<p>ハッピーパートナーの運転者確保については、さらなる高齢化の進行により将来的な需要増が想定される中、運転手不足は、より深刻化すると考えます。</p> <p>町が主体的に小鹿野町福祉協議会と連携し、積極的に事業や講習会等の周知、運転ボランティア募集等を検討してまいります。</p>
1 6	<p>(8) 公共交通利用サポーター制度について</p> <p>①複雑は交通体系になるので予約や利用方法計画策定するボランティア養成し高齢者利用促進を図る。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。</p>
1 7	<p>(9) その他</p> <p>①こじか筋力体操の広域開催を行い、移動手段として公共交通を使用する。</p> <p>②水道料金及び公共料金値上げ対策として公共交通利用者に対する薬師の湯利用料金減額を行う。</p> <p>③町立病院の協力得て公共交通利用者への利便を図る。</p>	<p>今後の参考とさせていただきます。</p>

<p>18</p>	<p>小鹿野町に住んで9年。地域の詳細は理解できていない事がたくさんあります。感じた事を書きます。 (テーマ) 高齢者はいつ迄運転できますか？ 運転しなくなったら移動はどのようにしますか？ 高齢者の公共交通のニーズを知るところから考えてほしいです。</p> <p>小鹿野町の人口は2025には1万人を割ると予想されます。団塊世代が後期高齢者となりさらに人口が減少します。町は少子化を止める方策もほとんどない(?)状況。高齢者が自分で車を運転しなくなった時、又はできなくなった時ここからの「足」をどのように獲得するのか町は把握する責任があります。 町民の意見を最大限にくみ上げる為にこん談会を立ちあげて、多方面からの意見等をまとめてほしい。本気度が問われます。</p>	<p>高齢化の進行に伴う様々な問題は、本町における重要な政策課題であると理解しています。 本町には路線バスのほか、乗合タクシー、福祉有償輸送事業(ハッピー・パートナー)、ファミリー・サポート・センターの子育て支援・送迎サービス等、多様な移動手段があり、これらをうまく組み合わせて利用することで、高齢者はもとより多様な世代の移動手段の確保に努めております。 また、計画の実施にあたっては、地域の様々な問題や課題を把握し、地域公共交通の果たすべき役割を理解した上で、地域の状況に応じた施策を検討してまいります。</p>
-----------	---	---

※なお、ご意見については、質問内容をそのまま転記しています